

スローガンは... 「震災関連死は生ませない!!」

- ★週末集中行動二日目の30日(日)、全国支援は6府県から33名！29日と合わせてると合計7府県49名に！鳥取職員85名、組合員20名(二日間実人数)で合計154名が行動に参加。医師4名、全日本民医連から阿南副会長、是枝次長も参加！
- ★訪問行動では二日間で514件、内、対話数359件、電話掛け総数201件、対話85件、総対話数444件となりました。
- ★避難所訪問4か所、片付けボランティア1件と旺盛な被災地救援活動に取り組みました。



29日、30日の両日、朝から続々と全国からの支援者が集まり、受付後、全体集会を開催。29日は中田県連会長、全日本民医連の阿南副会長(MMA T委員会委員長)、是枝次長のあいさつ、事務局より震災被害の状況、支援活動の概要を説明し行動開始。鳥取参加者と県外支援者でグループを作り、被害の大きそうな地域へと出発しました。訪問グループ数は二日間で30グループになりました。現地から参加の組合員さんたちは炊き出しボランティアと電話掛けに分かれ行動に参加しました。

阿南副会長、是枝次長、中田会長、皆木生協病院院長など被害の大きかった倉吉市役所とその周辺の被害地域の視察なども行い、被害状況の確認なども行いました。医師による避難所訪問も行いました。プライバシーが確保できていない状況やトイレの配慮がされていない問題などを報告されました。

初日の訪問中に震度4の地震が起きました。訪問先ではパニックになる高齢者、子供用に自転車ヘルメットをかぶったり、布団を抱えて出てくる住民、親が不在で雨が降り肌寒い中、外で毛布にくるまって避難している子供たちなど目撃されました。

オレンジジャッケでの「鳥取民医連・医療生協訪問活動」は地元新聞でも取り上げられ、住民を励ましています。行政が明らかにしていない自主避難の公民館館長から訪問中に声をかけられ、医療不安や炊き出しの大変さなどを訴えられ、援助に向けた取り組みにつながるケースも。庭で倒れかかった木製の塀の「片付けボランティア」の依頼に兵庫の東郷専務はじめとする事務系幹部による撤収作業もありました。フォローの必要な方々も多く報告されています。

2日間の行動の中で、帰るに帰れない方、怖くて自宅で寝れない方、自宅で孤立する方など、震災による精神的不安と将来への不安、生活再建の展望を見いだせない住民・組合員の姿が浮き彫りになっています。今週一週間、全組合員訪問めざして引き続き頑張りましょう！引き続き支援をよろしくお願いいたします。

